

令和元年度第2学期終業式 式辞（12月20日）

皆さんおはようございます。1年間で一番長い2学期が、今日で終了となります。皆さんにとってどんな2学期だったでしょうか。充実した生活を送ることができたでしょうか。

少し振り返りかえてみますと、「Happy Jam Jam ~ そこのあなたも笑いな祭 ~」をテーマに行われた「麗明祭」では、3年生を中心とした実行委員が、しっかりリードしてくれたおかげで思い出に残る素晴らしい学校祭を創り上げることができました。

その麗明祭を境に、3年生は卒業後の自分の将来にしっかり向き合い、本格的な受験シーズンに入りました。そして、就職試験や大学・専門学校の推薦入試はほぼ終了し、今年も順調に合格と内定をいただいております。年が明けますといよいよ進学組は、センター試験や私立大学・専門学校の一般入試が始まります。最後の最後まで最善を尽くして、全員が希望通りの進路が実現することを願っています。

部活動では、新たな目標に向けて練習や活動に取り組み、それぞれの部が、高みを目指して頑張りを見せてくれました。

運動部では、レスリング部の稲毛君と新体操部の遠藤さんが、茨城国体に出場し、県高校新人大会では、陸上部・レスリング部・新体操部・校外活動の水泳が上位入賞し、東北大会への出場を果たしました。特に水泳の志田君は東北大会でも入賞しています。また、3年生が残って春高バレー県大会に臨んだ女子バレー部とウインターカップ県大会出場の女子バスケットボール部は、それぞれ県ベスト8となり、頑張ってくれました。

文化部では、始業式でも伝えましたが、吹奏楽部が県大会で金賞となり、初の東北大会出場を果たし東北大会でも銀賞に輝いています。情報処理部は秋の県大会・東北大会でも多くの活躍がありましたし、将棋部も女子の部で県大会を突破し東北大会に駒を進めています。

また、JRCの皆さんをはじめ、多く人がボランティア活動に参加してくれました。特に、台風19号で被災した宮城県丸森町の災害ボランティアに参加してくれた人もたくさんいます。今、名前の挙がらなかった部も

一生懸命活動している姿を私は見えています。次の目指す大会や発表会に向けてしっかり力を蓄えてほしいと思います。

さて、先日、リチウム・イオン電池の開発に貢献した吉野 彰さんが、ノーベル化学賞を受賞しました。私たちの暮らしは今、リチウム・イオン電池なしでは成り立たないと言っても過言ではありません。皆さんが使っているスマートフォンや携帯電話、ノートパソコンなどの電子機器が、手軽に持ち運べるようになったのは、超小型で、繰り返し充電できる、この「リチウム・イオン電池」ができたからです。そうした意味でも、吉野さんの研究は、我々にとっても大変身近で、ありがたく思います。

吉野さんは、様々な場面で、研究はトライアル&エラー（試行錯誤）の繰り返しで、成功よりも失敗のほうがはるかに多い。だから、たとえ失敗しても、壁にぶちあたっても、「まあ、なんとかなるさ」という柔軟い考え方と、研究者として「絶対あきらめないぞ」という執着心の、二つバランスが必要だと、いつもニコニコしながら記者会見で話しをしています。

また、ノーベル賞・受賞後の「ノーベル・レクチャー」と呼ばれる記念講演では、太陽光など自然エネルギーで充電した電気自動車が走り回る、吉野さんが描く未来のビジョンを動画で紹介するなど、リチウム・イオン電池の更なる研究が、災害を招く地球温暖化や気候変動対策にも有効と訴えて、「ノーベル・レクチャー」を締めくくりました。考えてみますと、今年もわが国では、九州での豪雨災害や秋には巨大な台風15号・19号が相次いで発生し、堤防が決壊する大水害など、「自然災害」の脅威を痛感した一年でした。日本だけでなく、地球温暖化による環境問題は、極端な熱波や寒波、そして干ばつによる食料不足など、地球規模で大変心配されています。吉野さんの研究を起点として、環境問題の解決策につながる研究が、さらに広がり進むことを願っています。

終わりになりますが、明日から冬休みとなります。皆さんは、勉強や部活動など、やるべきことがたくさんあるかと思いますが、家の大掃除や年末年始の家庭での手伝い、新年の行事など、家族の一員としての役割を果たすことも忘れないでほしいと思います。

今年はまだ積雪がありませんが、これから寒くなり、積雪も多くなりま

す。健康に十分留意して、また雪道での事故などに遭わないよう注意して、年末年始を過ごしてください。1月8日の3学期の始業式には、新年の新たな決意を抱いて、元気に登校することを期待し、式辞といたします。